

2018年11月12日

第80回全国都市問題会議参加報告

日本共産党市議会議員 近藤米次郎

- ◎ 日時・平成30年10月11～12日
- ◎ 場所・長岡市
- ◎ テーマ・「市民協働による公共の拠点づくり」
- ◎ 講師 本郷和人東京大学史料編纂所教授他。詳細は資料2～3

1・テーマ設定の意義

レジメ集に「議題解説」として、会議の目的・意義が述べられているが、要約すれば「自治体が一方的に公共の拠点を整備するだけでは、市民の多様なニーズに応えることができず、市民活動や協働の充実につながらない。公共の拠点づくり自体、市民と行政との共同により進めていく必要がある」と述べ、各地の事例が紹介された。

このこと自体については大いに賛成であり、私自身、下関市の行政は、「協働」というが、中身が伴っていないと痛感しており、役に立つ各地の事例に大いに関心があった。

2・事例の中から印象に残ったこと。

① 三重県津市の「市民との対話と連携で前進している公共施設マネジメント」

津市では、市長が先頭に立ち、住民との対話を繰り返し、住民を説得するのではなく、住民の意見もしっかり聞いて、公共施設マネジメントを進めている。

② 長岡市の「市民主体のまちづくり」

長岡市では市役所本庁舎の中に広い空間や「市民協働センター」を開設し、様々なまちづくりが行われ、市民の意見が随分と取り入れられている。

その他、埼玉県和光市の取り組みなどキラリと光る事例が報告された。

いずれにしてもレジメ集にまとめられているが、「市民協働による公共の拠点づくりを進めるうえで、大事な視点は、市民協働を役割分担としてとらえるべきである。市民活動は決して「行政の下請けではない」と纏められているように、市民協働を考える場合、最も重要な視点である。

講師の話聞きながら、何度も「下関は果たして…」と何度も思った。

東日本大震災への対応

平成30年7月豪雨
(平成30年7月豪雨掲示板)

全国市長会事務局職員の募集案内

平成30年北海道胆振東部地震
(掲示板)

全国市長会TOP > 活動状況 > 本会の活動 > 第80回全国都市問題会議を開催、市長をはじめ約2,000名の行政関係者が参加（平成30年10月11日・12日）

活動状況

本会の活動(2000年～)

本会を取り巻く主な動き

政策推進委員会

年間行事予定

第80回全国都市問題会議を開催、市長をはじめ約2,000名の行政関係者が参加 (平成30年10月11日・12日)

10月11日、12日の2日間、長岡市のシティーホールプラザ アオーレ長岡において、「市民協働による公共の拠点づくり」をテーマに、後藤・安田記念東京都市研究所、日本都市センター及び長岡市との共催により約2,000名の参加者を得て開催した。

1日目は、主催者を代表して立谷会長の開催あいさつに続き、東京大学史料編纂所教授の本郷和人氏から「地方分権へのまなざし」と題した基調講演の後、開催市の磯田・長岡市長が「長岡市の市民協働」と題して主報告を行った。

その後、前葉・津市長が「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」、また、建築家で東京大学教授の隈研吾氏が筑波大学客員教授の森民夫氏とアートディレクターの森本千絵氏と併せて「場所の時代」と題して一般報告を行った。

2日目は、明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授の牛山久仁彦氏をコーディネーターとして、松本・和光市長、楠瀬・須崎市長、東京理科大学理工学部建築学科教授の伊藤香織氏、NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長の奥山千鶴子氏、長岡市国際交流センター「地球広場」センター長の羽賀友信氏によるパネルディスカッションを行った。

最後に、次期開催地の中重・霧島市長から歓迎のあいさつを行った後、閉会あいさつを日本都市センター理事の清原・三鷹市長から行った。



第80回全国都市問題会議開会式の模様

資料1

基調講演



本郷和人 (ほんごう・かずひと)

東京大学史料編纂所教授

1960年東京都生まれ。東京大学、同大学院に学び、1988年に史料編纂所に入所。助手、助教授を経て、現在同所教授。大日本史料第五編「鎌倉時代」を担当。専門は中世政治史、古文書学で、文学博士。近著に『日本史のツボ』（文春新書）がある。

主報告



磯田達伸 (いわた・たつのぶ)

新潟県長岡市長

1951年新潟県長岡市生まれ。明治大学政治経済学部卒業後、長岡市役所入庁。2011年地域政策監、2012年副市長を経て、2016年長岡市長に就任。現在1期目。若者が活躍できるまちづくりに取り組むとともに、山積する地域課題に対し、新しい技術や発想により解決を目指す「長岡版イノベーション」を進めている。

一般報告



前葉泰幸 (まえば・やすゆき)

三重県津市長

1962年三重県津市生まれ。1985年東京大学法学部卒業後、自治省（現総務省）入省。熊本県財政課長、京都市政策企画室長、宮城県総務部長、総務省大臣官房企画官などを経て、2006年デクシア銀行に転じ、東京支店副支店長。2011年4月津市長就任。現在2期目。2014年6月三重県市長会会長。2017年東海市長会会長。現在、全国市長会副会長、全国公立学校施設整備期成会会長、三重県道路協会会長、三重県漁港漁場協会会長、三重県後期高齢者医療広域連合長。「笑顔があふれ幸せに暮らせる県都津市」を将来像に据え、『まちづくり』から『暮らしづくり』へをテーマに市政を展開している。



隈 研吾 (くま・けんご)

建築家・東京大学教授

1990年限研吾建築都市設計事務所設立。慶應義塾大学教授を経て、2009年より現職。近作に根津美術館、浅草文化観光センター、長岡市役所アオーレ、歌舞伎座、アザンソン芸術文化センター、FRAC マルセイユ、V&A Dundee 等があり、国内外で多数のプロジェクトが進行中。新国立競技場の設計にも携わる。著書は『小さな建築』（岩波新書）『建築家、走る』（新潮社）、『僕の場所』（大和書房）他、多数。

Photo © J.C. Carbonne



森 民夫 (もり・たみお)

筑波大学客員教授

1949年新潟県生まれ。1972年東京大学工学部建築学科卒業。1975年建設省に入省。1999年から長岡市長に就任（5期）し、2016年に退任。2009年からは全国市長会会長にも就任（4選）。現在、近畿大学客員教授、東京大学非常勤講師、上智大学非常勤講師も務める。



森本千絵 (もりもと・ちえ)

アートディレクター

株式会社 goen^o 主宰。武蔵野美術大学客員教授。1999年武蔵野美術大学卒業、博報堂入社。2007年 goen^o 設立。2011年サントリー「歌のリレー」でADCグランプリ初受賞。伊丹十三賞、日本建築学会賞、日経ウーマンオブザイヤー2012など受賞多数。

資料 乙

パネルディスカッション

コーディネーター



牛山久仁彦 (うしやま・くにひこ)

明治大学政治経済学部
地域行政学科長・教授

1961年長野県生まれ。中央大学法学部法律学科卒業。明治大学助教授等を経て、2006年より同教授。中央大学法学部、日本女子大学人間社会学部兼任講師。日本学術会議連携会員、日本行政学会理事、日本地方自治学会理事。神奈川県総合計画審議会副会長、埼玉県行政不服審査会委員などの他、市町村アカデミー等で研修講師も務める。主な著書に『国家と社会の政治・行政学』『自治体議会の課題と争点』(芦書房)『分権時代の地方自治』(三省堂)等。

パネリスト



伊藤香織 (いとう・かおり)

東京理科大学理工学部建築学科教授
東京都生まれ。東京大学大学院修了、博士(工学)。東京大学空間情報科学研究センター助手などを経て、現職。

専門は、都市空間の解析及びデザイン。特に公共空間と都市生活の関わり方に着目する。主な著書に『シビックプライド：都市のコミュニケーションをデザインする』『シビックプライド2【国内編】：都市と市民のかかわりをデザインする』(宣伝会議)『まち建築：まちを生かす36のモノづくりコトづくり』(彰国社)など。シビックプライド研究会代表。東京ピクニッククラブを共同主宰し、公共空間の創造的利活用促進のプロジェクトを国内外の都市で実施。

パネリスト



奥山千鶴子 (おくやま・ちづこ)

NPO法人子育てひろば
全国連絡協議会理事長

NPO法人びーのびーの理事長。1962年青森県八戸市生まれ。内閣府子ども・子育て会議委員、内閣府少子化克服戦略会議構成員、NHK関東甲信越地方放送番組審議会委員、にっぽん子育て応援団企画委員他。2000年4月、横浜市港北区にて、母親仲間とともに「おやこの広場びーのびーの」を立ち上げる。2007年2月、子育てひろばの普及・啓発、および子育てひろばに関わるスタッフ研修の必要を感じ、実践者をサポートする中間支援団体「子育てひろば全国連絡協議会」を設立。全国の子育て支援団体との交流を深め、子育ての環境づくりに尽力。

パネリスト



羽賀友信 (はが・とものぶ)

長岡市国際交流センター
「地球広場」センター長

1950年生まれ。1980年カンボジア難民救援医療プロジェクト(現国際緊急援助隊)で国際協力プロジェクトに関わったのをはじめとして、帰国後は多様性を活かした地域づくり・人づくりに携わり、協働による地域力を世界に向け発信している。長岡市教育委員。まちなかキャンパス長岡学長。NPO法人市民協働ネットワーク長岡代表理事。ながおか・若者・しごと機構代表理事。チーム中越代表。外務大臣感謝状、JICA理事長賞、地域づくり総務大臣表彰など受賞歴も多数。

パネリスト



松本武洋 (まつもと・たけひろ)

埼玉県和光市長

1969年兵庫県明石市生まれ。1992年早稲田大学法学部を卒業後、金融機関等を経て東洋経済新報社出版局編集部勤務。2003年4月和光市議会議員に初当選、2009年5月和光市長に就任。現在3期目。「夢と希望が持てるまち、もっと元気な和光市の実現」を公約の柱に掲げ、「住んでよかった」と実感できる行政サービスを提供し続け、未来を生きる世代にとって魅力あるまちづくりを進めている。

パネリスト



楠瀬耕作 (くすのせ・こうさく)

高知県須崎市長

1960年高知県土佐市生まれ。東京経済大学経営学部卒業。錦ハイヤー株式会社代表取締役、よさこいケーブルネット株式会社常務取締役、須崎市行政改革委員長、須崎商工会議所副会頭を経て、2012年須崎市長に就任。現在2期目。全国平均より早く進んでいる過疎・高齢化・人口減少、改善道半ばの財政状況等に鑑み、新しい価値や地域の元気を創造して次世代につなげる地域づくり「持続可能な須崎づくり」を進めている。



資料